



# 森のなかま

2009年7月号

NO. 15 (継続160)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

**ホップ、ステップ、ジャンプ  
この一年間の歩みを、会活動の飛躍へつなげよう！  
竹島 明 新事務局長に聞く**

過日5月17日通常総会において新役員体制が決定し、いよいよ7月1日より本格始動を前に、竹島 明 新事務局長に会の課題・運営の抱負などを伺ってみました。

## 「念願の連絡事務所開設へ」

・ 昨年一年間は、名実ともにNPO一年生、まさによちよち歩きの一年であり、会員の皆様には、いろいろ歯がゆい思いをさせていただきました。組織のあり方、事業運営・展開などで形を整えることが精一杯でまったく余裕のない一年でした。その意味では事務局長の森本さんのご苦労がいかほどかと察せられます。しかし、この一年の経験があったればこそ、さまざまな課題解決への礎が築かれたのだと思います。

その一つが私たちの活動のベースキャンプともなる事務所開設です。まさに会員の方の強力な支援があって、7月開設にこぎつけることができました。現在、通信回線の架設、電話・パソコン、コピー・FAXの配置の準備をしています。

## 「新たな事業展開への模索」

・ 昨年度は「成長の森巡視」という従来のボランティア型の委託とは異なる新たな契約形の事業を受託することができました。NPO団体となった私たちの会の今後の契約のあり方は、競争入札・随意契約を問わず、このような形になるものと思われれます。今年度においても幾つか新たな分野での契約が予想されています。

こうした契約をするということは、受託した仕事内容が厳しく問われることでもあり、会としての仕事遂行能力のレベルが問われざるを得ないということでもあります。受託する事業企画、日常的なスキルアップ、そして参加者の安全危機管理も厳しく要求されます。その意味で

事業企画委員会

技術委員会

安全管理委員会

全国植樹祭実行委員会

などの各種委員会でのビジョンや施策の具体化、それと連携した各部会の活動展開が求められるところです。

## 「こういう方向での活動も」

・ 特にこの方向でとは限定していませんが、まずは稼げる所からといいたいでしょうか。その中でもポスト植樹祭以降の神奈川県森林作りの方向に反応して行くことが必要かと思えます。この点については事業企画委員会と森林部会の早急な連携が必要かと思っています。また今後の事業展開として「水源林パートナー」との親密な連携、さらには児童・生徒の「森林体験企画」を諸学校に働きかける等が必要になっていると思えます。

**「先立つもの・・財政確立」**

- ・ 最初に、ご紹介しましたように、7月から事務局が開設され、情報の集約基地として会活動の充実・拡大に寄与することは確かですが、これも先立つものがあることで、その意味で会一丸となった努力が求められます。具体的には賛助会員・団体会員の勧誘、寄付活動の追及、それぞれの事業にふさわしい補助金・助成金の追求など会財政を支えることが求められます。

**「活動しやすい組織作りを目指す」**

- ・ 人、もの、金・そしてそれを支える組織のあり方も決しておざなりにはできません。別冊に「組織と担当」を提示しておきましたが、まだまだ改善していかなばなりません。この点でも、会員の皆様の真摯なご意見をもとに改善をはかっていきたいと思っています。**ホップ、ステップ、ジャンプ、**ともあれ**「一年間の歩みを会活動の更なる飛躍へつなげよう」**、この言葉を胸に奮闘努力をしていきたいと思ひます。会員の皆様のご協力を切にお願いいたします。

(聞き手 広報部)



## 私の認識

前稿では、“姿”と“声”のブッポウソウについてご案内しました。“姿のブッポウソウ”は分類で、ブッポウソウ目ブッポウソウ科の野鳥で“声のブッポウソウ”はフクロウ目フクロウ科の野鳥のコノハズクでした。今回はブッポウソウ目の野鳥で大変に珍しいのをご紹介します。我国で見聞きできるブッポウソウ目の野鳥は、カワセミ科のカワセミ、ヤマセミ、アカショウビン、そしてヤマショウビン、次が前稿のブッポウソウ科のブッポウソウ、それに今回説明させ頂くヤツガシラ科の旅鳥(タビドリ)、稀に夏鳥のヤツガラシ(漢和名:戴勝、八頭、英名: Hoopoe, 体長L = 28 cm、同色)です。

世界地図上での分布は、ユーラシア大陸の温帯とアフリカ大陸の熱帯から温帯です。我国では遭遇機会に非常に低い野鳥だと認識しております。



日本での生息環境は集落付近の農耕地、草地や川原などで1羽で行動している事が多いと図鑑に載っております。私の23年に及バーディング経験の中で唯一度だけヤツガシラを至近距離でバッチリと観察できました。そのときの様子を記憶を辿って披露いたしましょう。時は平成元年3月中旬頃、WWF-Jが主催する“相模川河口のゴミ拾い探鳥会”に参加し、昼前に終了散会しました。当時は相模川河口の東側には湘南シーサイドカントリークラブ関連の建物があり、その建物は空家で建物の周囲の空地は枯草に蓋われてました。その中に人ひとりが行き来できる細い道があり、その道は国道134号線の茅ヶ崎市柳島の手前に通じてました。134号線沿いにコンクリート塀があり、その塀の切れた所に車数台が駐められる空地があり、私は自分の車をそこに駐車してました。

そこへ向かう途中でヤツガシラに出逢ったのでした。駐車してある自分の車の処に戻る途中、前述の建物の脇の細い道にさしかかった時、視野の中前方右側に何か動くものがあり、注視すると丈の高い枯れたアメリカセンダングサの枝の上に1羽のヤツガシラが居たのです。辺りは私一人、ヤツガシラとの距離は約5~6米位でした。瞬時に立竝(たつすく)みました。体色は頭から胸前、背面中程までが淡橙褐色、そして後半から尾羽までが太い白色と褐色の縞模様があり図鑑の通りです。

## 野鳥 その68

## 高橋 恒通

然も私の前方のその個体は冠羽を立てゝおり、恰もインディアン酋長の頭飾りの羽根冠(ハネカムリ)の如き姿だったのです。冠羽の先端は黒褐色と白、そして基部まで橙褐色でした。細目で長く先が下向きに曲がった黒褐色の嘴が体形全体のバランスを美事に保ってました。私は歩を止めて完全にフリーズ状態になり、内心では、「凄い!素晴らしい!」との感動に突き起こされ乍ら、顔は目が点となり瞬(まばた)きすら憚られる如き状態でした。

その間は時間にして15-20秒位でした。ヤツガシラは立てていた冠羽を畳み、頭を少し下げて1~2歩前へ進んだ後に緩やかに羽搏き、フワフワした感じで北の方角、寒川方面に飛び去って行きました。冠羽を畳むと、サイクリングの人が被るヘルメットの如き、或いは阿闍利(アジャリ)を目指す修業僧が吉野の山中で行う千日詣(センニチモウデ)の折に被る縦長の笠を彷彿させる如き形状で、大変に印象的でした。それから2~3日は“良いものを見た、得をした、鳥好き冥利に尽きるナ”の気分に戻り続けました。

此の旅鳥は春の彼岸頃に確認されてるケースが多いと言われてています。

## &lt;参考資料&gt;

日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内哲也、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴声)/上田秀雄、山と溪谷社。

日本の野鳥、山溪カラー名鑑、編 高野伸二、解説 浜口哲一他3名、山と溪谷社。

写真: ウィキペディアフリー百科事典より  
日本の野鳥、竹下信雄著、小学館。



高橋恒通さんご推薦

ようこそ  
八ヶ岳山麓  
へ……

「八ヶ岳自然ヒュッテ」では、八ヶ岳山麓、野辺山高原他の野鳥スポットをご案内いたします。自然の素材をいかした料理も美味しい。ご主人の竹内さんは7期の森林インストラクターです。お泊り予約は電話にて055-147-4886 竹内さんまで。

## < 山誉祭 >

木村 光子(2期)

山をほめる祭りがあることをご存知でしょうか。現在は種蒔の神事と合体して「山誉種蒔狩獵祭」(やまほめたねまきすなどりさい)と呼ばれています。これを行うのは玄界灘に臨む北九州地方、志賀島の「志賀海神社」です。古代から海人(あま)の一族が奉じる社(やしる)で、金印「漢倭奴国王」が発見された地としてご記憶の方もおられるでしょう。3世紀に書かれた「魏志倭人伝」の世界へと誘う場所です。当然ながら祭神は海の神「綿津見」(ワタツミ)三神ですが、毎年4月15日にここで山をほめる祭りが行われるのです。

現在では海の中道でつながる志賀島の、海岸近い森の中に社はあります。参道の途中には「山の神」社が祀られており、海と山とは一体なのだと告げています。

森林インストラクターとしては耳にするだけで嬉しくなるこの祭りを紹介しましょう。祭りは太鼓の響きと共に始まります。笛の音に乗ってまずは種蒔神事が行われ、三方に盛られた11品の神饌が一つ一つ手渡しで神前に供され、祝詞があげられます。この時御神体を安置する扉の開閉には、「おー」と三度息の続く限り大声が発せられます。神の出現に際して発する掛け声で警蹕(けいひつ)と言います。これは起源も定かでないほど古い社の、古代の力を呼び覚ますような力を感じさせるものです。この後神前に供えられた種物を、門前の太鼓橋の上から四方に蒔く所作があり種蒔神事は終了となります。

ちなみに山の神に捧げる特別な神饌はあるのか、前日宮司さんにお尋ねしたところ、山の神は容貌が良くないため、きれいな供物は好まないとの伝承があり、魚はオコゼを差し上げるのだそうです。海人族の祖神、阿曇磯良(あずみのいそら)も長年海底に住んで体中に貝や海藻が付き、醜い姿になったとの言伝えがあり、それと対になって興味深いものがあります。

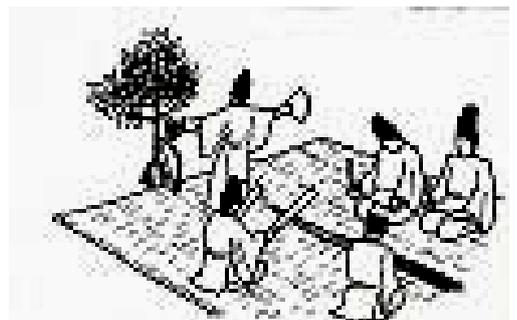
続いて「山誉祭」へと移ります。本殿から階段を下りたところに神籬(ひもろぎ)を立て、その前に敷かれた薦(こも)の上で行われます。薦の上には長い檜と二つ一組の藁束が置かれています。神籬とは神の宿るところ。ここではサカキではなくスダジイの大枝が、砂を盛上げた上に差込まれていました。スダジイは「事無柴」(ことなきしば)と呼ばれ、その下部には弓矢が置かれます。おいしい実のなるスダジイは、古代から山の恵みを象徴する木だったのでしょう。

やがて社人の一人が神籬に向かって立ち「事無柴」の小枝を持って、右回りに大きく円を描いて回します。次いで別の三人が一人ずつ右手に扇子を持って神籬に向かい、左右に腕を広げてから打合わせる仕草を行います。同時に背後で長い平板を持った人がそれを高らかに打ち鳴らします。この時詞が発せられます。「あーら良い山繁った山、あらふれる正木のかずらいろまさるこのこまに水をかいはみをあたえよ」そして鹿を狩るために弓矢を取って射る仕草をします。

次いで二人が檜を取り、船漕ぎの所作を行うと三人が背中合わせに座って前かがみとなり、背中で藁束をパタパタと振ります。これは鯛が尾を振るさまを表すものです。

以上で神事は終了です。その起源は明らかでないものの神功皇后伝説に登場するほど古く、稲の豊作、山の幸、海の幸の豊かさを祈願する祭りですが、海の民が山をほめるという何とも素朴で印象深いものです。現在では福岡県の無形文化財に指定されていますが、宮司さんが余り宣伝はしていないとおっしゃるとおり、参会者も少ないところを見れば知る人も限られるのでしょう。

とは言え豊かな海と豊かな山は一体のものという発想は、こんなに古くからあったと驚くと共に、自然の恵みを受けながら生きた古代の人々にとって、当たり前知恵ののだと納得がゆきます。「山誉祭」は人と自然のかかわりの根源を垣間見る、そんな祭りなのです。



## 松田町だより

## 芋焼酎で町おこし 2

私達も参加しましょう！！

松田町町制施行 100 周年記念事業として、私達のフィールド寄地区の皆様が、芋焼酎「百年紀」をつくる会を発足しました。

寄地区の荒廃農地を開墾し、サツマイモの植え付け、収穫を行い芋焼酎の原料をつくって九州の醸造会社で焼酎にしてもらうのを目的とした会です。もちろん非売品で“マイ焼酎”なんです。個人会員は1口20000円(720ml・12本)6/27現在 森林文化部会(落合さん他)1口・広報部(村井他)1口、発注しました。他の部会及びそれぞれの期の方の参加で寄を盛り上げましょう！！パートナー林の方々の参加も大歓迎です。法人会員は50000円です。



## 2009、1月下旬

ほとんど森林の状態からの大変な作業でした。素人では手が出せない状態で見事なまでに手際の良いベテランスタッフによる開墾作業です。



1本の苗から約2kgの芋が収穫できます。

4000本の苗が植え付けられました。4000本ですと単純計算で8tです。醸造用の芋の収穫量は5tを予定しています。



会員の手による獣害防護柵、電気柵設置作業。これで、鹿、イノシシの被害から芋が守られます。1万5千ボルトの電流が流れています。

問い合わせ：〒258-8585 足柄上郡松田町松田惣領2037 松田町役場企画財政課  
小田様 電話：0465-83-1222  
受付時間：平日の8時半～17時15分



6月4日(木)には、松田町農業委員の方々による苗の植え付けが行われました。

余った農地では、落花生等が植えられました。収穫時期に会員の皆様にお配りできればと、寄の会員の方々による心温まる作業が続きます。21・6/8現在134の方が会員となっております。目標は300人です。

申し込み用紙必要な方は、  
[murapu60dai@yahoo.co.jp](mailto:murapu60dai@yahoo.co.jp) 広報部 村井まで  
ご連絡頂ければ、お送りいたします。

写真提供；松田町役場  
企画財政課 小田様

活動短信

5/14 ~ 5/31

第61回全国植樹祭かながわプレ大会2009

野外体験学習(2日目のコース別学習)

**日** 5月14日(火)9時20分~12時  
**場** 愛川ふれあいの村自然観察路 中津川  
**参** 茅ヶ崎市立浜須賀中学校 生徒70名  
 塚本、渡辺先生他 カメラマン1名  
**財** 古館  
**イ** L 斉藤、島岡、相馬、鈴木、須長、  
 加藤、内野、中島、

一泊二日体験学習は、自然観察コースとリバーウォッチングコースに分かれ、観察をしながらの学習であった。自然観察路コースは、三班23名が参加、1~10までのポイントで自然と森林について学んだ。時間に余裕のある班は、ふれあいの村の広場で、少し詳しく指導した。

晴天が3日ほど続き、観察日と心配した山ヒルの害もなく、落ち着いて楽しく観察ができた。一方リバーサイドウォッチングは、中津川の観察で、寄から借用の水生生物班の小道具を使った。下見の時は、ダム放流などもあって増水していたが、当日は普通の水量で、各班10種類程の水生生物を採取できた。沢ガニが多く、カゲロウ、カワゲラ、カジカ、沢エビの透きとおる幼魚も採集でき楽しく観察できた。(記 6期 斉藤)

(株)鈴廣蒲鉾本店 間伐体験

**日** 5月19日(火)  
**場** やどりき水源林  
**参** 大人13名  
**県** 小司、斉藤秀  
**イ** L 武者、酒井

今日の間伐は、創業してより140年間、板蒲鉾等を作り続けている「鈴廣」の新入社員研修。明日の社を担う気概に満ち満ちている若者を想定し、幾分に緊張しながら道具の準備をするうち、ヴィトン風の手提げバッグとお化粧をしっかりとした若い女子を中心に新入社員13人が集合。

2班で、パートナー林最奥の「恵水の森」で間伐を開始。7人で25年生程度のヒノキの受け口作り。最初は5回ほど鋸を引くや交代していたメンバーも、木屑とともに心地良い香りがし出すと、真剣モード全開。

垂直重心が谷にあり、横に伐倒するため、一本ムカデ梯子で架けておいたロープを引き、作業前に指差しておいた方向に伐木成功。思わず上がる拍手。統括の森林講話で、「最優秀建材ヒノキの使用禁止が法律で定められている建物は何?」全員沈黙。「博物館」という答えにホーという声。

鋸を引く苦労とともに、木への愛着と水源の大切を皆さん知った様子、研修の成果を上げ、無事終了。

(記 10期 酒井)

緑の祭典“かながわ未来の森づくり”(県植樹祭)

**日** 5月23日(土)8時~15時(前日準備)  
**場** 足柄森林公園丸太の森經由南足柄市塚原地区  
**県** 小島総括、斉藤書記(水源の森林推進班長)  
**イ** L 米山、国分、大澤、後藤、  
 花粉の少ないヒノキ370本、広葉樹(イロハモミジ、カツラ、ケヤキ、ヤマボウシ、ヤマザクラ)240本

合計610本の植栽の前準備を前日に行いました。

- (1) 会場の視察、道路整備、
- (2) 記念標柱の建て込み
- (3) 移植コテ等道具類の準備と配置、
- (4) 納品された苗木の受入と植樹会場の植穴に1本ずつ配置
- (5) 当日の誘導方法や指導内容の確認を行った。  
 当日は快晴で、汗でびしょりです。

第1回南足柄市民植樹祭

**日** 5月24日(日)6時~14時  
**場** 南足柄市塚原地区植樹会場  
**県** 小島総括、斉藤書記(水源の森林推進班長)  
**イ** L 米山、菊池、国分、吉山、増子、  
 鈴木友 武者、白畑、坂齋、山崎、  
 浦野、久保、黒澤、飯澤、高橋、  
 水口、小笠原、大澤、酒井、後藤、  
 小田原駅西口から6時に出発、暫くすると小

雨が降りだした。降ったり止んだりの状態が続いた。

ヒノキ苗は、ふるい根のため、乾燥させないように袋のまま前日保管していたもので、植樹開始前に植穴に1本ずつ配置した。第1陣は7時50分に10台のマイクロバスで(計画人数200名に対し150名程度)が到着、小雨の中、植樹を行った。植樹後に秦野会場に移動することもあり、8時30分には、あわただしく出発した。午後の部として、11時40分に10台のマイクロバスに乗った参加者(計画人数200名に対し150名程度)が到着、小雨の中、針葉樹(ヒノキ)と広葉樹(イロハモミジカツラ、ケヤキ、ヤマボウシ、ヤマザクラ)各1本ずつ植樹し、12時40分に出発。県職員、南足柄市職員、インストラクターで植樹残しが無いか、しっかりと植樹してあるか等確認し、作業を終了。合羽の中は、汗でびしょりでした。

(記 10期 後藤)



雨中 ご苦労様でした。

「平成21年度 川崎市里山ボランティア育成講座」  
第一回

日 5月30日(土)  
場 菅北浦緑地(川崎市多摩区)  
参 一般市民 29名  
スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか7名  
イ L松崎、伊藤、清水、井口、村井、金森、  
川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズ平成21年度の第一回目。このシリーズは川崎市が、昨年度に引き続き、「魅力ある花と緑の街づくり」を目指して行政と市民との協働によるパートナーシップ型事業として展開しているというもので、抽選によって選ばれた市民34名(第一回は29名)が参加。今回は多摩区の菅北浦緑地で行われた。あいにくの雨のため雨天プログラムで展開、まず現場で全員でセイタカアワダチソウ、大ブタクサなどの帰化植物を抜き取った後、近くの公民館に移動、樹木医の小林菊代さんの講義、参加者の自己紹介などを行い、午前中で終了した。  
(記 5期 松崎)

「集まれ!湘南Jr.レンジャー隊」

~湘南にグリーンウェーブを巻き起こせ!

日 5月31日(日)9時半~15時  
場 大磯小学校 湘南平  
参 子供(幼稚園児~小5年生)100名  
保護者50名、青年会議所会員100名  
主催 湘南4MLまちづくり会議  
イ L斉藤、島岡、高橋、白畑、渡部、加藤、中島、  
平塚・藤沢・茅ヶ崎・寒川青年会議所の4団体が合同で企画・運営をする活動で、今年で3回目である。大磯小体育館で、島岡さんによる自然環境レクチャー「森の仕組みと役割」(森を知ろう)の後7班に分かれて約1時間の自然観察をしながら湘南平登山をした。(森を感じよう)  
昼食後、平塚市長も参加して、桜の木(4本)を記念植樹、杉材の丸太切り・コースター作り(木を使おう)と盛り沢山のプログラムを体験して、参加者全員が認定証と観葉植物の苗木をもらい(木と暮らそう)終了した。  
幼稚園児~小学5年生を対象にした自然観察会は難しいものがあり苦労をしたが、青年会議所の会員が一生懸命運営にあたり全員怪我もなく終了したことで、気持ちの良い汗をかいた一日だった。  
(記 7期 渡部)

第2回秦野市植樹祭

日 5月24日(日)9時~15時半  
場 秦野戸川公園  
県 菊池、小堺(森林課)  
イ (植樹指導)L竹島 井出 長谷山  
宮本 佐藤 滝澤 鈴木孝

イ 愛木 小野 渡部 塩谷 有坂 加藤 齋藤彰 清水 富山 宮本 中島 福島 村井 金森 角田 時田 松山 宮下  
(木工クラフト)齋藤 大道 伊藤 中元

(グッズ販売)佐藤、森本(広報)鈴木  
7:30 秦野駅集合。おりしも出鼻をくじかんばかりの驟雨。バスで植樹会場、戸川公園へ。8:20 班分け、植樹の準備に取り掛かる。この頃には雨もやんで、お客さんを待つばかり。8:45 第一陣の到着を皮切りに、予定20団体が次々と到着。それぞれの団体を事前に予定されたエリアに案内してインストラクターが植樹の要領を説明、その後一斉に植え付けをしてもらう。今回は植え穴も掘ってあり、苗木も穴にセットしてあるという事前準備の行き届き様。8種類(イロハモミジ、クスギ、ケヤキ、コナラ、コブシ、ハウノキ、ヤマザクラ、ヤマボウシ)800本の苗木、残処理でインストラクターの手を煩わせたとは言え、滞りなく「完植」となる。  
(記 3期 竹島)

< 森林ハイク > 真鶴半島

「巨木の茂る魚付き保安林で初夏を満喫」

日 5月31日(日)  
参 一般募集、97名参加(応募者273名・受付127名)  
財 壹崎、河野、  
イ L福原、宮本、高崎、黒澤、久保、三浦、野田、女川、内野、杉崎、橋本、海野、木島、  
危ぶまれた天候も全く問題なく太陽が顔を出し、暑い日差しの中での観察会となった。  
お林展望広場でオリエンテーション。かながわトラストみどり財団の壹崎さんの挨拶に始まり、L福原さんの観察のポイント説明、野田の注意事項のあと班ごとに出発。直径1メートル前後のクロマツ、クスノキ、スダジイ、タブノキの巨木が当たり一面に生い茂る林の中はさすがに涼しく暑さも忘れられる。300年以上も大事に守られてきた素晴らしい林をこんな身近で観察できることはなんと恵まれていることでしょうか。下見のときのクスノキの目の覚めるような鮮やかな黄緑色の葉もすっかり力強い濃緑に変わり、自然の移り変わりの早さには驚かされる。いつものことだが10班体制での観察会。団子状態になることを一番恐れているが、歩き始めてしばらくすると各班の間隔があき始め、10班100名の観察会とは思えないような状態に適度な間隔があき、一般の人たちの邪魔になることもなく観察会を進めることができた。説明をしながら前後の班との間隔に気遣って下さったリーダーの方々に感謝。ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。  
(記 8期 野田)

やどりき水源林  
ミニガイド

6月のトピックス

・管理棟前に掲示板ができました。



7月の水源林

・春一番に花を咲かせた木々は、実を



つけ出します。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・午後1時より1~2時間程度(12,1,2月休止)

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

\*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

ヒメボタル・観察会

7/11~12 鍋割山荘

ヒメボタルは陸棲息のボタルの代表格で7月中~8月初めにかけて発生する。強発光はヘイケボタルより鮮明で見ごたえがある。毎年、発生時期に2~3週間のプレがあるのでタイミングをつかむのが難しい。近年の温暖化の影響で発生が早まる傾向にあります。

予約：090-3109-3737

詳細は山荘ご主人・草野さん

森のなかま原稿募集

送り先

< 手書き原稿送り先 >

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784

Fax/<株リコー・森宛045-590-1910

>

Mail:myforest@yha.att.ne.jp

< メール原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax:045-476-4112

Mail:murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax:045-961-6695

Mail:i\_kanamori@morinotabibito.com

【メールCCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax:042-796-6011

Mail:morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

編集後記

グッズマイスターに認定された10期中元さんの竹細工を10期のテーマとして取り組むことにしました。竹細工の技能向上は勿論、作品は会を通して販売し、多くの方々に喜んでもらえれば幸いです。

(金森)

学生山岳部のOB会に参加した後、昔トレーニングに励んだ岩のグレンデを見に行きました。若い頃登れた岩壁も垂直に見えます。第一スタンスの地蔵の頭が昔のままでした

(井出)

じめ~っとした、梅雨が始まりましたが、水源林の動植物は元気ですね。雨の日こそ、出かけようと思います。

(森)

蜂が不足している問題から、養蜂家の蜂が大量死する傾向があり、同等に女王蜂の自然不足があると言う。専門家は、働きすぎと色々な花を巡る疲れ?が有るそうだ。今度はおたまじゃくしが大量に降った。この自然現象はいかに。よもや皆既日食に異変がなければと願う。最近の有意天変に疲れたようだ。(鈴木松)

おかげさまで、連絡事務所が見えてきました。ありがたいことです。また、7/1より、事業企画と普及啓発を所管します。引き続きご協力の程を、よろしく願います。(森本)

同期のMさんが受賞した。西丹沢や森林を愛し、地元、寒川の問題にも努力した結果だ。嬉しいね。いつも前向きのMさんに乾杯。(村井)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(領価 200円 送料共)

編集人：竹島 明

広報部：村井正孝、井出恒夫、

金森 巖 鈴木松弘、森本正信

森 義徳、鈴木 朗

ヤマケイ・カルチャークラブ 様々な登山とカルチャーの楽しみ方をご紹介します。詳細はアルパインツアーサービスのホームページをご覧ください。

身近な日本の山旅から世界各地の山岳リゾートや辺境の地までアルパインツアーは自然を愛する方々を地球のデコボコへご案内します。次の山旅は、アルパインツアーで出かけてみませんか。\*\*\*\*\*



アルパインツアーサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル

Tel:03(3503)1911 info@alpine-tour.com

http://www.alpine-tour.com

